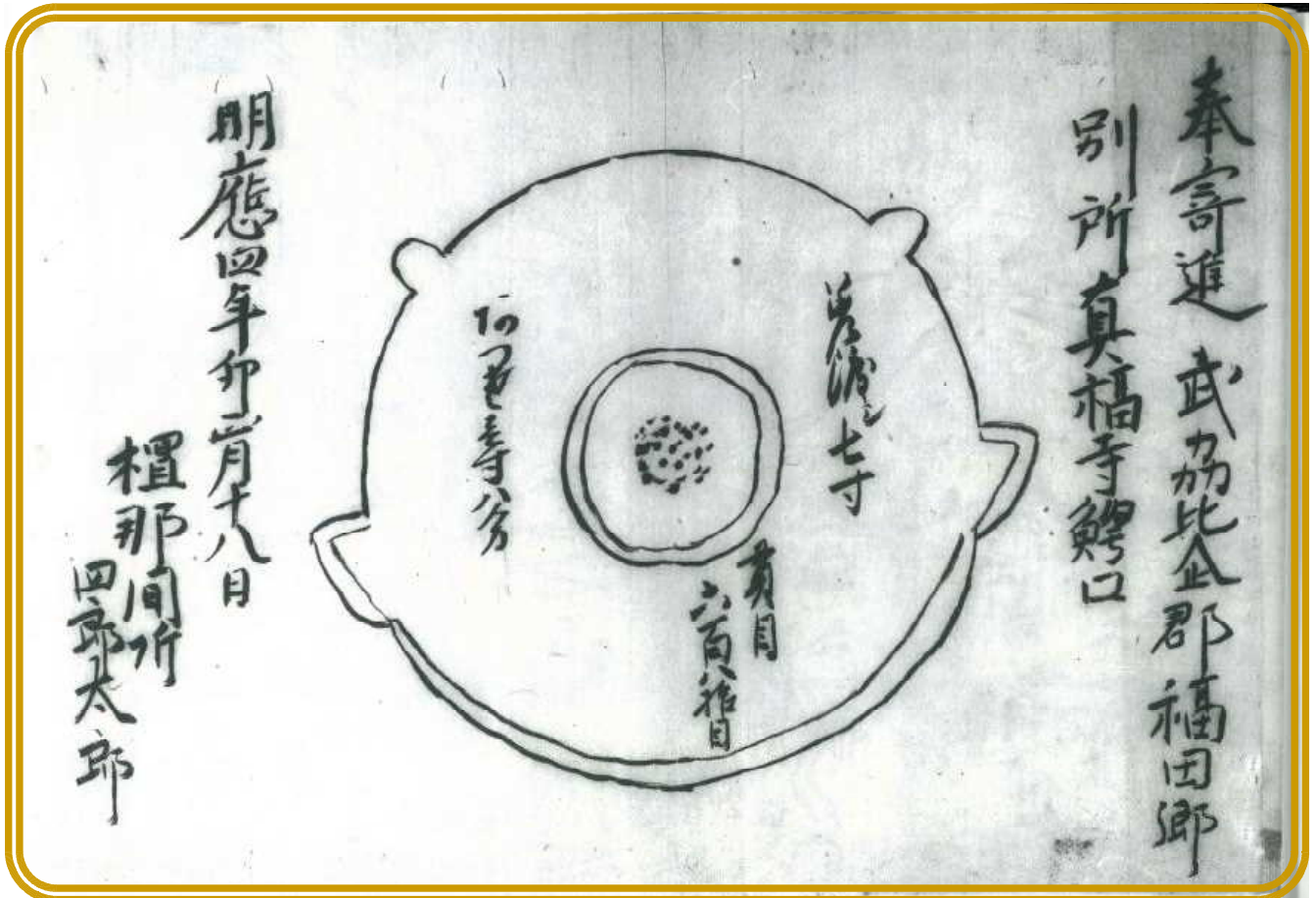


寒川文書館だより

Vol. 16



岡田・観護寺で発見された鰐口の記録（三沢恵一氏蔵）

■第16号目次■

資料紹介「岡田で見つかった武州福田村真福寺の鰐口」	2
保存期間満了公文書の選別	3
企画展「近世寒川の領主群像」	4
進む町外資料の公開	6
文書館 最近のできごと	7

第16号
2014.9.30
寒川文書館

<資料紹介> 岡田で見つかった武州福田村真福寺の鰐口

(三沢恵一氏蔵)

表紙の絵は、天保8年(1837)に岡田村の観護寺境内で発見された鰐口の形状や銘文を書き留めたものである。明応4年(1495)の作で、直径7寸(約21cm)、厚さ1寸8分(約5.4cm)、重さ680目(約2.5kg)と記されている。

この鰐口は埼玉県に現存している。比企郡滑川町の指定文化財となっており、同町福田の成安寺で大切に保管されている。この鰐口をめぐるのは、戦国時代の、そして江戸時代後期の人々の不思議な縁があった。本稿ではその一端を紹介したい。

観護寺は古義真言宗の寺院である。安楽寺の末寺で、本尊は不動明王であった。明治37年(1904)、安楽寺に合併され、廃寺になった。

この境内で、天保8年(1837)3月18日、鰐口が発見された。「覚(岡田村観護寺にて鰐口出土一件に付)」(三枝万里子氏蔵)にその顛末が記されている。内容を要約すると次のとおりである。

観護寺の境内には第六天社があり、その脇に高さ5尺ほどの松の木があった。その根元を掘ったところ、「奉寄進武州比企郡福田郷別所真福寺鰐口」という銘文の刻まれた鰐口が出土した。そこで福田村に連絡をとったのであろうか、翌年2月、福田村の真福寺の檀家2名が岡田に来訪したので、鰐口を返却した。その際、お礼として錘鉢1組と金3分の寄進を受けた。

岡田村の記録は、この覚書と表紙に掲げた絵の2点しか現存していないが、福田にはこの鰐口にまつわる別の記録や伝承が残っている。

成安寺所蔵の鰐口の由緒書は、明治26年(1893)

に松山(現東松山市)で開かれた骨董展覧会に出品した際の添書きである。これによれば、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めの際、武州鉢形城を囲んだ兵たちが小田原へ向かう途中、福田村を通りかかると、真福寺に掛けてあった鰐口を奪い去り陣鐘として使ったが、小田原城近くの「心福寺」に捨ててしまった。それから200年余りを経て、心福寺近在の農民が境内から掘り起こし寺宝にしていた。文政12年(1829)、福田村の名主石川清兵衛が、江戸の宿屋で小田原近在の心福寺のある村の名主と偶然居合わせ、互いの郷里の話をする中で鰐口の存在を聞き、現地へ受け取りに行ったという(『滑川村史』通史編)。

発見されたのが小田原近在であること、江戸で偶然その存在がわかったこと、発見された年代に開きがあることなど、岡田の史料の記載と異なる部分もあるが、双方の伝承や記録は概ね一致する。奪われた鰐口が二百数十年後に里帰りするという数奇な運命に、岡田の人たちが一役買っていた。岡田村の2枚の古文書はこうしたドラマを物語っている。(高木秀彰)



真福寺鰐口(滑川町 成安寺蔵)

保存期間満了公文書の選別

文書館では、寒川町の現用公文書のうち、保存期間の満了する文書の中から歴史的価値の認められる文書などを選別する作業を行っています。ここではその作業の一端をご紹介します。

寒川町文書取扱規程では、1年、3年、5年、10年、永年の保存年限区分を設けています。このうち総務課行政総務担当が本庁地下書庫で集中管理をしている3年、5年、10年文書については、保存期間が満了になるとき、文書館が選別をしています。

保存期間満了文書は、毎年3月中旬、まず作成課が廃棄か延長かを確認します。次いで廃棄決定後の文書を文書館が現物を見ながら選別していきます。その際、歴史的・文化的価値と行政の説明責任の2

つを念頭に、例規や制度の改廃、審議会等の記録、施策の意志決定の記録、町民からの請願や要望などを中心に収集します。また新規事業やその年の象徴的なできごとを漏れなく集められるよう、年度ごとの留意点を一覧表にまとめておくなどの工夫もしています。

平成26年3月には、平成15年度の10年保存文書など、9箱114ファイルを収集することができました。



本庁地下書庫での選別作業



選別済みのフォルダ

1周年を迎えた古文書愛読会

寒川古文書愛読会は、文書館の古文書講座の受講者を中心に結成されたサークルです。平成25年8月に発足して1周年を迎えました。

1年間かけて読んできたのは、明和9年(1772)の「五人組御改帳」(田端・村田一美家文書)。毎回2名の報告者を決め、くずし字の読みや現代語訳を発表し合うという作業を積み重ね、このほど翻刻を終えました。成果は来春発行の町史研究に掲載する予定です。

現在は2点目として天保13年(1842)「掟書」(入沢章家文書)の輪読を始めました。

現在のメンバーは11名。毎月第3水曜日の午後、

総合図書館の会議室で史料を輪読しています。関心のある方はぜひのぞいてみてください。



<第16回企画展>

近世寒川の領主群像—うらの殿様はどんな人?—

江戸時代の寒川町域11ヶ村は、二十数家の旗本等が分け持つ、複雑な支配が行われていました。

領主のなかには大岡忠相や田沼意次など教科書でもおなじみの人物がいましたし、江戸城の医師や琴の名手など多彩な顔ぶれもありました。

この企画展では、村との関係などを示す古文書をはじめ、系図、役職の記録などから、彼らの素顔に迫りました。



展示風景

会期：平成26年3月9日（日）～8月31日（日）※既に終了しております。



江戸時代初頭の寒川町域には、田端村・一之宮村・中瀬村・大曲村・岡田村・小動村・宮山村・倉見村の8ヶ村が存在しました。その後、岡田村と大蔵村・小谷村が分村し、また大曲村と下大曲村が分かれ、18世紀の初め頃までに現在の寒川町域を構成する11ヶ村が誕生しました。

これらの村の多くは、禄高500～1,000石前後の中級旗本によって支配されていました。幾度かの領主の交替を経て、大名1家・旗本18家+寺社領で明治維新を迎えています。

領主たちが実際に村々にやってくることは、江戸時代初期を除いてほとんどありませんでしたが、領主と村々とはさまざまな形の絆で結ばれていました。



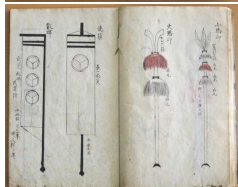
各村の領主たち

※紙面の都合上、展示した内容のうち、ほんの一部をご紹介します。詳しくお知りになりたい方は、ご来館のうえ展示記録ファイルをご覧ください（開架ではありません。文書館カウンターで職員にお尋ねください）。



下大曲村領主大岡氏の
西大平陣屋（愛知県岡崎市）▶

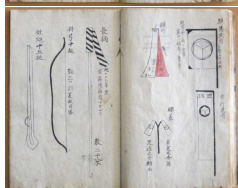
田沼意次の領地復帰を願い、
小動村が提出した願書
▼（当館蔵阿部家文書）



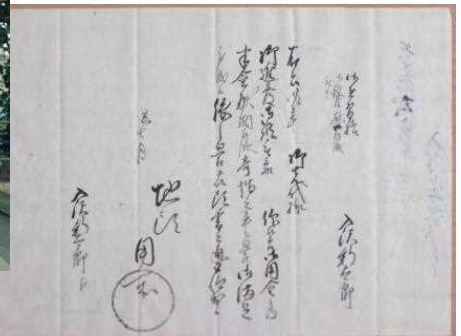
▲ 宮山村領主杉浦氏に関する記録
「旗本杉浦家八千石陣立御料地」
▼（当館蔵）



一之宮村領主松平氏が名主に与えた
下賜状（入沢章家文書、当館寄託）▼



▲ 16世紀末に倉見村を治めた
高木清方の墓所（行安寺）



町史講座「旗本たちの幕末維新」

上記企画展の関連行事として、平成26年7月5日（土）、第12回町史講座「旗本たちの幕末維新—中瀬村領主春田与八郎を中心に—」を開催しました。

講師は早稲田大学非常勤講師椿田有希子氏。展示の準備の過程で新たに判明した事実の中から、中瀬村の最後の領主・春田与八郎にスポットを当て、幕末維新时期の旗本たちの動向について紹介しました。

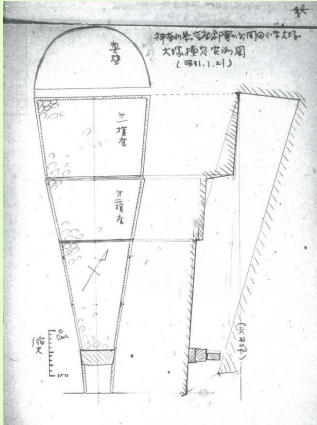
春田与八郎は、幕府の教育機関である蕃書調所（のち開成所、東京大学の前身）の英語教員となりました。明治維新後、静岡に移住しても、静岡学問所の教員を務めるなど、幕末維新时期を英語で身を立てるというユニークな生き方をした人物です。37名の参加者の多くは、決して有名でない一人の旗本の生き様に感じ入った、といった感想を書き残していただきました。



進む町外資料の公開

寒川町史編さん事業のおりには、町内の資料だけでなく、町外に所在する寒川に関連する資料についても積極的に調査を行いました。その成果の一部は町史刊行物に反映することができましたが、さらに文書館において写真版を閲覧していただけるよう整備を進めています。所蔵者のご協力により、今年度新たに閲覧できるようになった資料群の一部をご紹介します。詳しくはカウンタでお尋ねください。

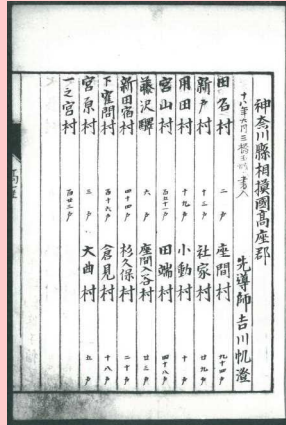
神奈川県立埋蔵文化財センター 所蔵資料（赤星ノート）



岡田大塚横穴墓のスケッチ

昭和20～30年代、県内をくまなく調査した考古学者・赤星直忠が調査現場で記したフィールドノート。

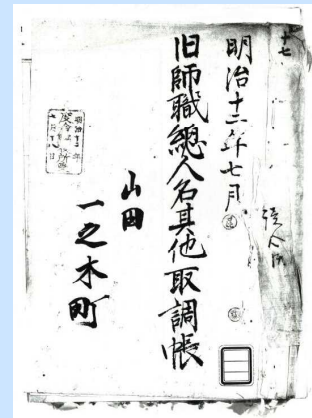
大山阿夫利神社文書



「開導記」高座郡の部分

明治16年に大山御師（先導師）の檀家の軒数を、先導師別に書き上げたものである。

三重県神社庁・伊勢市立図書館・ 三重県立図書館所蔵資料



三重県神社庁文書

「旧師職総人名其他取調帳」

伊勢の御師が持つ檀家の書き上げを中心に、伊勢信仰の様子がわかる資料を調査した。

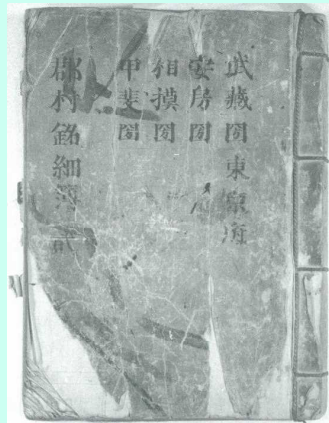
勝木坊・正伝坊・大聖坊・宮田坊・養清坊・桜林坊・橋本坊文書



大聖坊文書「関東檀那御祈禱帳」

羽黒山修験のうち、関東に檀那場をもつ各宿坊の文書を調査。関東における出羽三山信仰の様子がわかる。

一宮修家文書



「郡村銘細簿」

関東周辺に檀那場を持つ榛名山修験の宿坊「般若坊」の史料。一部は高崎市榛名歴史民俗資料館に寄託。

横浜国立大学附属図書館蔵 「神奈川県教育会雑誌」



「神奈川県教育会雑誌」創刊号

創刊された明治21年から昭和7年までの297冊。教材・教科の研究や、県内教員の異動情報などを載せている。

文書館 最近のできごと

■新採用職員研修 4月9日(水)



この4月に寒川町職員となった7名の研修の一環として、文書館の機能や役割について講義しました。公文書館とは何か、といった一般的な説明をするとともに、文書館は職員の仕事の後方支援をする「知恵袋」であると強調し、積極的な利用を呼びかけました。さらに、収蔵庫を見学してもらい、明治22年の最古の公文書や、配属先各課の過去の文書を見せ、公文書を残し活用することの意義を理解してもらおうよう努めました。

■土曜古文書会の来訪 6月28日(土)



神奈川県立公文書館で古文書を勉強するサークル「土曜古文書会」の皆さん56名が来館しました。館内施設や企画展「近世寒川の領主群像」の見学のあと、商工会会議室に会場を移し、高野山高室院文書の中から天明2年(1782)「檀廻日並」をテキストに古文書の講義を行いました。さらに、この日実践デビューとなった寒川観光ボランティアガイドの案内で、寒川神社を訪れるという、盛りだくさんな一日となりました。

■神輿まつりに出店 7月21日(月)



浜降祭の日、寒川町から参加した神輿が茅ヶ崎海岸での神事を終え帰還する際、寒川駅前公園に集結して開かれるイベント「さむかわ神輿まつり」が開催されます。寒川文書館ではこの春に刊行した『寒川町史調査報告書』「浜降祭日記(4)」のPRのため、今年初めて出店させていただきました。大会本部横にブースを構え、来場した方々にチラシを手渡し、見本を見てもらうなどして、普及に努めました。

■図書館・文書館体験ツアー 7月25日(金)・8月1日(金)



学校関係の公文書を閲覧

町内の小中学生を対象に、総合図書館と文書館のバックヤードを見学したり、実務を体験したりするイベントです。今年は7月25日に6名、8月1日に5名の参加がありました。文書館では、各自の通っている学校の校舎建設や校歌制定などに関する公文書や、昔の学校行事の写真などを見せ、記録を残すことの意義を説明しました。さらに、マイクロフィルムの巻き替え作業も体験してもらいました。

今後の事業予定

■開催中の展示

平成26年9月14日(日)から平成27年2月28日(土)まで、企画展「1964 50年前の寒川」を開催中です。ちょうど50年前の昭和39年は、東海道新幹線の開業、東京オリンピックの開催など、日本が大きく変わる節目の年でしたが、寒川でも砂利採取の終焉、工業団地の造成などのあった大きな転換点でした。そのような一年を、たくさんの写真や公文書で紹介しています。ぜひ足をお運びください。



■平成26年度後半の事業予定

平成26年度後半は次の事業を実施予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

- 懐かし映像上映会「50年前の神奈川」(11月3日)
- 中世史講座(11月22日より全4回)
- ミニ展示「末年のできごと」(1月上旬より)

編集後記

「寒川文書館だより」第16号をお届けします。平成26年3月から8月まで、江戸時代の町域を治めたすべての領主を紹介する企画展「近世寒川の領主群像」を開催しました。領主の中には大岡忠相や田沼意次など、教科書にも登場する有名人もいましたが、多くは無名の中下級の旗本でした。彼ら一人ひとりにスポットをあてることで、寒川町域との関係をそれぞれ浮き彫りにすることができました。副題につけた「うちの殿様」の素顔をこれからも引き続き掘り起こしていきたいと思ひます。

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分
寒川町コミュニティバス
神奈中・相鉄バス 海老名駅～寒川駅線
「図書館文書館前」下車 徒歩1分
※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第16号

平成26年9月30日

編集・発行/寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp